

果樹カメムシ類の越冬密度調査結果について

令和6年3月15日
埼玉県病害虫防除所

ナシ、モモ、カンキツなどの果樹を加害する果樹カメムシ類の発生量の予測を目的として、チャバネアオカメムシなどの越冬密度調査を行いました。

調査の結果、チャバネアオカメムシ（越冬成虫）の捕獲数は平成26年以降の11年間で最も多く、確認地点率は2番目に高いことが明らかとなりました。

果樹カメムシ類は、地域によって越冬密度が異なり、スギ・ヒノキが近くにある山間部等に多く飛来することがあります。

また、気象条件によっては発生時期が早まることがあるため、今後、病害虫防除所が発表する情報（予察灯、フェロモントラップでの誘殺数）を参照し、果樹園等への初期飛来に注意して適切に防除してください。

1 調査時期

令和6年1月31日～2月15日

2 調査地点

8地点（表参照）

3 調査方法

- 雑木林の南斜面から、1地点につき3か所（各1㎡）の落葉を採取。
- 採取した落葉をビニル袋に詰めて口を閉じた状態で温室内（25℃加温）に2週間以上静置し体色が緑化したチャバネアオカメムシ等の成虫数を調査。

4 結果

1地点あたりの平均越冬虫数は4.75頭で、過去10年の平均虫数0.74頭に比べ、6.4倍に達し、平成26年以降最多となっています。

確認地点率は75%で、平年地点率38%に比べ高く、平成26年以降2番目に高い結果となりました。（表、図1）

表 果樹カメムシ類の越冬成虫数

単位：頭

採取地点	チャバネアオカメムシ	その他のカメムシ
東松山市松山	1	
北本市荒井	0	
寄居町鉢形	9	
神川町新里	0	
加須市上種足	3	イネカメムシ2、ツヤアオカメムシ1
蓮田市高虫	5	
春日部市内牧	18	
久喜市清久	2	イネカメムシ8、イチモンジカメムシ2
計	38	—

平均越冬成虫数（1地点あたり） 4.75 （過去10年の平均虫数 0.74）

確認地点率 75% （過去10年の平均地点率 38%）

注）イネカメムシは果樹を加害しませんが、近年、水稲での被害が増加しているため参考として掲載しています。
また、イチモンジカメムシはダイズなどマメ科作物の害虫です。

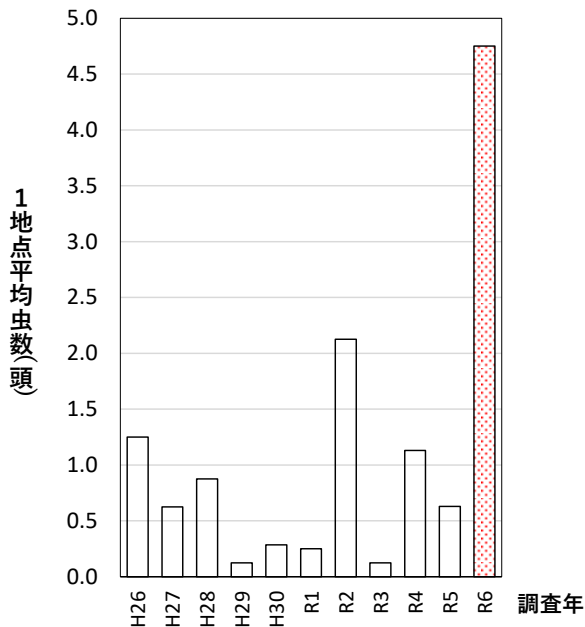


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫調査結果

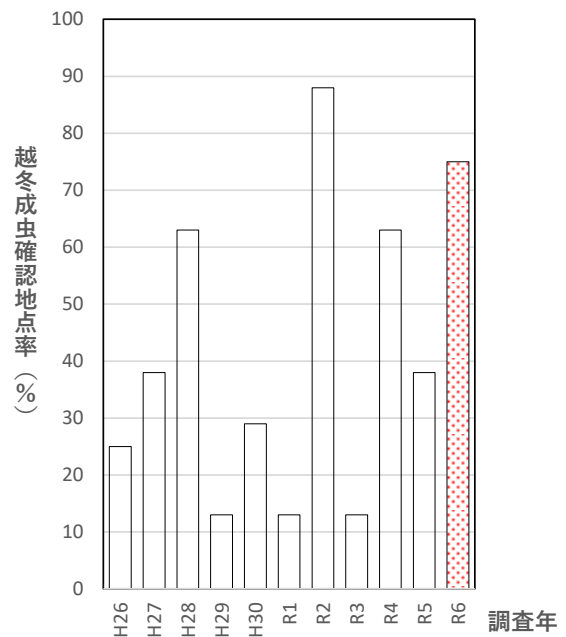


図2 越冬成虫確認地点率

○生態と被害

・チャバネアオカメムシ

体長 10～12mm で光沢のある緑色で、前翅は紫がかった茶色をしています(図3)。広食性で、4月から夏にかけてはクワ、サクラ、ヒイラギ、キリなどに、夏以降はヒノキ、スギ、キリなどに寄生します。ナシ、モモ、ウメ等多くの果樹を加害しますが、幼虫はスギやヒノキの球果を餌として発育するため、本種は果樹園では増殖しません。



図3 チャバネアオカメムシの成虫(体長10～12ミリメートル)

・被害(果樹カメムシ類共通)

果樹園に飛来し、果実を吸汁します。加害を受けると、吸汁部がくぼんで奇形果になります。収穫直前の被害では、くぼみの程度は軽くなりますが、吸汁部周辺の果肉は白くスポンジ状となり、商品価値が損なわれます(図4)。



図4 被害を受けたナシの果実

○来年度以降注意する点

埼玉県において越冬世代成虫が直接加害する可能性がある樹種はウメ、モモ、スモモ等が考えられます。周辺地域のヒノキやスギなどの球果の量、気象条件、地域により果樹園に飛来する量は異なりますが、県全域的に越冬成虫数が多いため多発する懸念があります。

また、ナシでは越冬世代成虫が直接加害することはほとんどありませんが、越冬世代が多いとそれに伴い、ナシを加害する第1世代以降の個体数も増加する傾向があります。病害虫防除所が4月中旬以降に公表する予察灯、フェロモントラップ等の調査データを確認し、適期防除を行いましょう。